様式第８号（第６条関係）

決裁	議　長	局　長	次　長	局長補佐	係　長	係　　員
			尾形	賞		今野　高橋　狩野

派遣承認要求書

令和６年５月 24 日

栗原市議会議長　殿

会派に属しない議員
尾形　勝通 ㊞

下記のとおり議員を派遣したいので、承認されるよう要求します。

記

日　　時	令和６年７月 11 日（木）05 時 30 分から 令和６年７月 13 日（土）21 時 00 分まで
派 遣 先	① **東川町議会**『北海道上川郡東川町１丁目 16 番１号』 ② **ふらのまちづくり株式会社**『北海道富良野市幸町 13 番１号』 ③ **栗山町議会**『北海道夕張郡栗山町松風３丁目 252 番地』 ④ **北海道大学総合博物館**『北海道札幌市北区北１０条西８丁目』
派遣目的	① **東川町議会**　写真の町として有名な東川町の「ひがしかわ株主制度」や本当の意味での「移住定住施策」の検証と我が市との比較。日本で初、唯一の公立の「東川日本語学校」は国際交流事業の中心とも言え、東川町が目指す「適疎なまちづくり」や関係人口の増加に貢献している手法の考察等。 ② **ふらのまちづくり株式会社**　まちづくりに関わる公共性の高い事業運営での地元や行政との関わり方や「富良野市の中心市街地の活性化」に成功している事例を参考にし、我が市での道の駅構想や中心市街地の活性化構想の参考にしたい為。 ③ **栗山町議会**　我が市でも直面している議会改革についての考察や、議場での議員の質問に対する町長や職員への反問権の付与等、栗山町議会基本条例の特徴や策定の経緯の考察。議会改革の背景はどうだったのかの考察等。 ④ **北海道大学総合博物館**　学術標本の保管や整理の仕方、展示方法から保存の方法等、次世代への継承と情報の提供を、我が市の文化財保護や展示方法、また遺跡出土品や文化財の保管等に関しての考察等。我が市での展示施設の参考にする為。
経　　費	旅費 100,800 円、その他経費：視察先への土産代 1.200 円：空港往復自家用車代 2,984 円：東川町他視察資料代 11,500 円
派　遣 議員氏名	尾形　勝通
議長依頼 文の要否	(要)　　否
備　　考	その他参加者　市民くりはら２名、創成会２名

収受
-6.5.24
栗原市議会

式第９号（第６条関係）

決裁	議　長	局　長	次　長	局長補佐	係　長	係　　員

自家用車による出張計画表

令和６年５月24日

栗原市議会議長　殿

会派に属しない議員
尾形　勝通

下記のとおり自家用車による出張をしたいので、承認されるよう要求します。

記

日　時	令和６年７月11日（木）～令和６年７月13日（土）
出 張 先	北海道上川郡東川町・北海道夕張郡栗山町・北海道札幌市
目　的	行政視察（栗原市役所から仙台空港までの往復）
出 張 議 員	尾形　勝通
自家用車所有者	佐藤　千昭（市民くりはら）

行程明細

出発地～行先	利用道路	距離(km)	車　賃	有料道路代	駐車場代
栗原市役所～仙台空港	東北道他	85	680	512	300
仙台空港～栗原市役所	東北道他	85	680	512	300
	小　計	170	1,360円	1,024円	600円
			出張雑費		
			総　計	2,984円	

収受
-6.5.24
栗原市議会

経費：参加人数５人で案分

栗原市議会会派視察行程表

【市民くりはら・創成会・尾形勝通】　　日程：令和6年7月11日(木)～7月13日(土)

月日	行　　程	発	着	摘　　要
7/11 (木)	栗原市役所　～　仙台空港	5:00	6:30	自家用車乗り合わせ
	仙台空港　～　新千歳空港	7:45	8:55	JAL 2901便
	新千歳空港駅　～　札幌駅	9:39	10:22	区間快速エアポート39号
	札幌駅　～　旭川駅	11:00	12:25	特急ライラック13号
	旭川駅　～　東川町役場	12:40	13:45	タクシーにて移動
	東川町行政視察(机上・現地調査) 株主制度・移住定住・日本語学校	14:00	16:00	東川町役場 経済振興課・日本語学校 TEL:0166-82-2111
	東川町役場　～　1条昭和通	16:17	17:20	旭川電気軌道
	ホテル（旭川市内泊）	17:30		プレミアホテルCABIN旭川
7/12 (金)	旭川駅　～　富良野駅	7:39	9:02	富良野線
	ふらのまちづくり株式会社 市街地活性化フラノマルシェ視察	9:15	10:15	ふらのまちづくり株式会社 TEL:0167-23-5177
	富良野駅　～　滝川駅	11:13	12:15	根室本線
	滝川駅　～　岩見沢駅	12:32	12:59	特急ライラック22号
	岩見沢駅　～　栗山駅	13:03	13:26	室蘭本線
	栗山町行政視察(机上調査) 議会改革・議会基本条例その他	14:00	16:00	栗山町議会事務局 TEL:0123-73-7517
	栗山駅　～　札幌駅	16:23	17:24	高速バス　ゆうばり号
	札幌駅　～　中島公園駅	17:35	18:00	札幌地下鉄南北線
	ホテル（札幌市内泊）	18:20		ダイワロイネットH札幌中島公園
7/13 (土)	ホテル　～　北海道大学総合博物館	10:00	11:00	地下鉄にて移動
	北海道大学総合博物館 埋蔵文化財展示方法・その他	11:00	13:00	理学・生命科学事務部事務課 博物館 TEL:011-706-2658
	札幌駅　～　新千歳空港駅	15:30	16:06	特別快速エアポート128号
	新千歳空港駅　～　仙台空港	17:45	18:55	ANA 4810便
	仙台空港　～　栗原市役所	19:30	21:00	自家用車乗り合わせ
	解散	21:00		

申請日　　6 年 5 月 20 日

会派視察 旅費以外 経費見積書

部署：　会派に所属しない議員

氏名：　尾形　勝通

合計：　¥12,700

日付	内容	支払先	金額	備考
7月10日	視察先への栗原土産（東川町・栗山町）	栗原市観光物産協会	¥1,200	1名分　@1,200円
7月11日	東川町　視察負担金	東川町会計管理者	¥10,000	1名分　@10,000円
7月12日	ふらのまちづくり株式会社　視察負担金	ふらのまちづくり（株）	¥1,500	1名分　@1,500円

様式第１０号（第７条関係）

視察研修結果報告書

令和７年　３　月　21　日

栗原市議会議長　高橋　渉　殿

氏名　尾形　勝通　印

視察・研修した結果について、下記のとおり報告します。

記

１　期　間　　令和６年７月11日～13日

２　視察研修先

① 北海道東川町 東川町役場・東川日本語学校（経済振興課・日本語学校）

② 北海道富良野市 ふらのマルシェ（ふらのまちづくり株式会社）

③ 北海道栗山町 栗山町役場・栗山町議会（栗山町議会・事務局）

④ 北海道札幌市 北海道大学総合博物館（理学・生命科学事務部事務課）

３　目　的

① ひがしかわ株主制度や写真の町として、移住定住施策について学ぶ。また「東川日本語学校」の運営についても学ぶ。

② 富良野市の中心市街地の活性化ついて学ぶ

③ 栗山町議会基本条例の特徴や議会改革について学ぶ。

④ 標本の展示方法から保存の方法など学ぶ。

収受
-7.3.21
栗原市議会

4　調査研究内容

別紙の通り。

5　参加議員

尾形勝通

1　東川町 東川町役場・東川日本語学校

概要

①東川町は1985年に「写真の町」宣言して以来、美しい自然環境に恵まれ、自然と文化と人が出会う「写真映えの良い」地域づくりを進めている。

②移住定住政策の推進により、30年間で1500人の移住人口があり、毎年50人ほど増えている。

③大雪山の伏流水の綺麗な水で米づくりを行っており、「ゆめぴりかコンテスト」で最高金賞を受賞し、2011年以来連続で「特A」を獲得し、厳しい生産環境を克服して稲作農業を振興している。

④移住施策では移住者が新築する際「東川風住宅設計指針」に基づき屋根の形や色、外壁の色や、植栽まで美しい町並みを実現する為規定にそって建てられている。

⑤公立東川日本語学校

語学だけでなく日本文化に触れる機会をつくって、近隣市町村が連携して外国人介護福祉人財を養成する取り組みを進めており、人材難で苦しむ地方自治体にとっては人材確保となる日本語学校であると思料される。

所見

当町では「ふるさと納税」ではなく、東川の今後を応援しようする人が、当町に「投資」して「ひがしかわ株主」になり、町の未来を創っていくという株主制度があり、投資の財源により様々な事業に取り組み地域を活性化することで株主サービスを還元している。これが投資の好循環を作り上げていたが、他の自治体でもまねできる事業ではないが、ふるさとの未来を買っているという姿勢はふるさと愛を醸成し、ひがしかわファンを増やし、移住定住に結びついている。

栗原市でもすぐに類似の事業に転換する事は出来ないが、本事業からヒントをえて地域活性化施策に活かせる点があると思料された。

また初の公設日本語学校は栗原市の活性化に示唆を与えられた感があった。特に栗原市南部には外国人研修生や外国人事業者が多く定住しているので、私立学校誘致または公的学校の設置については、今後市政の課題と捉える必要があると思料した。

2　ふらのマルシェ（ふらのまちづくり株式会社）

概要

①行政主導の駅前再開発は失敗に終わったとの事。補償金をもらった４９軒の地権者は２６件が廃業し地区外移転した。町の衰退を促進した。

②その後「富良野市中心市街地活性化協議会」設立され、民間の再開発が市民主導で行われた。

③公的まちづくり会社が補助金の受け皿となり、事業主体となってルーバン・フラノ構想で田園と都市の良さを合わせ持つ、おしゃれなまちを創りましょうと活性化策にとりくんでいる。

④中核になる「ふらのマルシェ」は、市民の憩いの場、おもてなしの拠点、まちの情報発信基地、まちの縁側　等の役割を果たしている。

⑤車より人を重視し、町中の回遊を促進し、マルシェは地域資源を活用したテナントと共に持続可能な健全経営に成功している様に思われた。

所見

　商店街の中心的な施設となっているふらのマルシェは消費効果で、売上で５億から9.5億となったが、なお入込人数は、2023年で126万人を数えて10数年前の２・3倍となっているが、栗原市でもすぐに類位の施設ができるということはないが、中心市街地の活性化策のヒントがある。例えば「車より人」レストラン・食堂はマルシェに創らずにまちを回遊する仕組みがあり、栗原市の中心市街地形成の政策推進のなかで参考例になると思料された。

3　栗山町役場・栗山町議会

概要

　栗原市議会で議論されている議会改革の手法等を調査研究する為に当町を訪問した。当町は人口11000人弱で世帯数は5751世帯、面積203㎢の町です。

どうして議会改革推進に至ったかは、平成の合併で重くなる議決責任と、問われる説明責任と透明性、このような議会改革の社会背景にあったとのこと

所見

①議会基本条例の制定

　「この条例は議会の透明性や住民参加を促進する為の基本的な枠組みを提供した条例で自由闊達な討議をつうじて、論点争点を発見し、公開することは討議

の広場である議会の第一使命。」と前文にうたわれ、討論の重要性、公開の原則を強く打ち出しているところは、栗原市議会でも取り上げて行きたい所である。

②議会改革
わが市同様に議会ライブ中継配信の導入、議員定数の削減、議会モニター・サポーターの導入等積極的に議会改革を進めていると認められた。わが議会においても「住民参加の機会の保障」など参考にすべき事例が多くあったのが、議会改革の推進に当たっては特に住民参加を意識した改革を進めたいと思料された。

4　北海道大学総合博物館
概要
　当博物館の 1 階では各学部の説明や各学部からの展示があり、ノーベル化学賞受賞の鈴木章名誉教授の研究発表する記念館ともなっていた。
　また前身の札幌農学校以来の歴史や精神を紹介するコーナーもあった。
2 階は鉱石や鉱物岩石などをさわる事のできる体験型の展示場となっており見学者がよろこんで触っている姿が認められた。

所見
①博物館について
　当館は大学の研究成果を一般に公開するという点で地域の文化的発展と学術普及に貢献している。特に多様な展示物を通じて北海道の自然・文化・歴史を学べる点、特に観光客にもたいへん魅力のある博物館と感じられた。
②教育的活用としての博物館
　研究者や学生が利用する学術的施設でありながら、一般市民にも開かれている点はたいへん評価できると思われる。これによって大学の研究内容が地域社会や未来世代と共有される好循環が生まれる。今回の視察で得た事柄を参考にしながらわが市の文化振興や教育の向上推進策について、この視察を活かして行きたいと思料された。